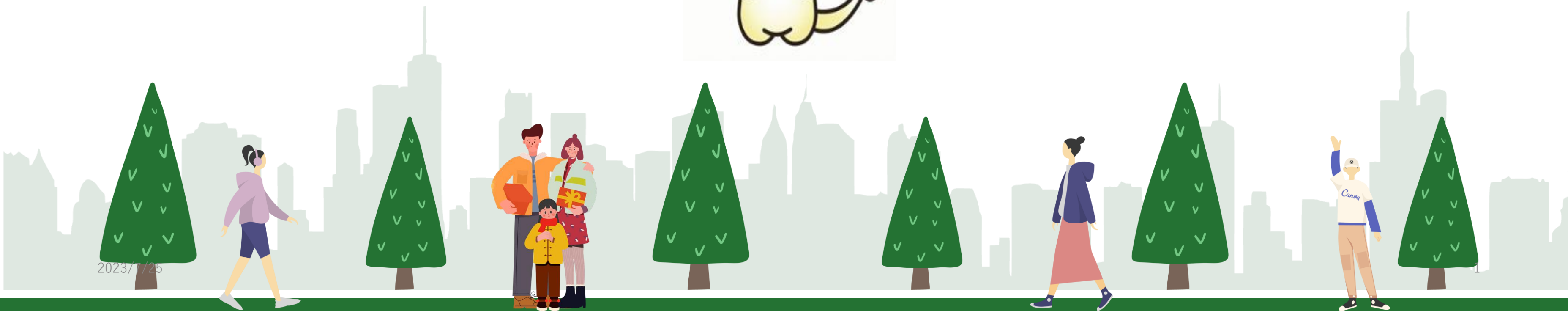


せたがやホッと子どもサポート「せたホッと」

令和4年度 活動報告書

Ⅲ. 相談対応・調整活動状況



事例紹介

(活動報告書 p 38 ~ 49)

プライバシー保護のため
複数の事例から構成するとともに
内容等も一部変更しています



中学生のいじめにおける
学校の対応に関わる
電話・面接相談

01

中学生のいじめにおける学校の対応に関わる 電話・面接相談（父親・本人）

【相談内容】

報告書p38 事例1



保護者

子どもが、クラスメイトからいじめを受けている

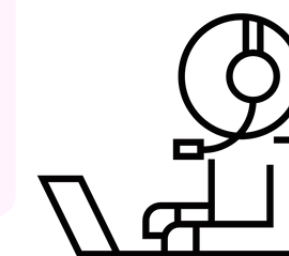
- ・「死ね」「消えろ」といった暴言がある
- ・休み時間のドッジボールで顔を狙われたり、ボールを拾おうとした際に顔を蹴られたりなどされている

→子どもは学校に行くのが怖くなってしまっている

警察や弁護士に相談したほうがいいのか分からず、どうしたらいいかを相談希望

せたホツと

可能であれば直接本人からお話を伺いたいと伝える



 本人と保護者で来所していただく

中学生のいじめにおける学校の対応に関わる 電話・面接相談（父親・本人）

【面接（せたホツと）】

報告書p38 事例1



本人

新しい学年になってからいじめが始まった

- ・何か言われるかもしれないといった恐怖
- ・夜になるといじめを思い出して眠れなくなることがある

→ 学校に行くのがつらくなった



父親

学校はアンケートを実施、いじめの調査はしてくれたが、
加害の子への指導やクラスメイトへのいじめの説明が不十分

→ 本人が安心して通える環境を作ってもらえないか

→ 加害の子への指導として警察や弁護士に相談すべきかどうか

中学生のいじめにおける学校の対応に関わる 電話・面接相談(父親・本人)

【面接(せたホツと)】

報告書p38 事例1

- ・本人の苦しい思いに寄り添い、安心して過ごせる学校となるように「せたホツと」が学校に話しに行くことを提案

まずは「せたホツと」に任せてもらえないかということも伝えたところ、本人・保護者から了承を得ることができた

せたホツと



後日、子どもサポート委員と相談・調査専門員で学校を訪問

中学生のいじめにおける学校の対応に関わる 電話・面接相談(父親・本人)

【学校に訪問し、管理職から話を聞く】

報告書p38 事例1



学校

学校→できる限りの対応をしている

- ・保護者から警察や弁護士に相談したいと言われ、対応に苦慮
- ・保護者から毎日電話もあり、学校は疲弊している様子

せたホツと→学校へ

本人が安心して登校できる学校に変えていく方法を考えてほしい

→「せたホツと」が保護者と本人の気持ちを第三者として受け止め
調整するので、学校の体制を考え直してもらうようお願いをする

せたホツと



中学生のいじめにおける学校の対応に関わる 電話・面接相談（父親・本人）

【相談者・学校との橋渡し役として】

報告書p38 事例1

相談者に対しては

その後、「せたホツと」は、
本人の気持ちや意見を聴きながら、
学校との橋渡し役として調整

学校側の動き

クラスに説明したうえで、本人が安心して
きるように支援員を入れるなどの対応
を行った

せたホツと

現在でも、本人から話を聴いたり、「せたホツと」が学校へ授業を見に行くなど、
調整を続けている

02

学校・教職員等の対応に関わる 電話・面接相談 (小学生・母親)



学校・教職員等の対応に関する電話・面接相談 (小学生・母親)

【相談内容】

報告書p40 事例3



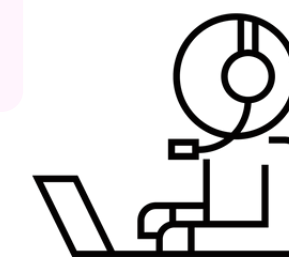
母親

担任の先生がいつも急に怒りだすがその理由がわからない

- ・みんなで仲良く遊んでいたのに「その遊びはいじめだ」「危ないからやめなさい」と言われ納得がいかない。
- ・授業で手を挙げて順番に答えているのに、自分のところだけ飛ばされる。
→母親は、担任の先生と話してみたが、子どもの話と食い違いがあり、どちらを信じたらいいのか分からなくなった

母親からの電話→直接本人からもお話を伺いたいと伝える

せたホツと



→ せたホツとで母子と一緒に面接へ

学校・教職員等の対応に関わる電話・面接相談 (本人小学生・母親)

報告書p40 事例3

【面接(せたホツと)】



本人

- ・担任の先生からの理不尽と感じる行動や注意が辛い
 - ・突然みんなの前で大きな声で怒鳴ることも怖い
 - ・担任の先生に一生懸命話しをしたが、なかなか話を聴き入れてくれない
- だんだんおとなを信じられなくなった
そして担任の先生には反抗的な態度をとるようになってしまった



母親

- ・担任の先生にもっと子どもからの話をしっかり聴いてもらいたい
- ・子どもに注意をするときには、理由も話してくれると、なぜ注意されたのかを理解できる

学校・教職員等の対応に関わる電話・面接相談 (本人小学生・母親)

報告書p40 事例3

【面接(せたホツと)】

本人の思う理不尽さに寄り添い、行き違う思いを調整するお手伝いもできると伝える

→相談者から「もう一度、自分たちの気持ちや考えを担当の先生と管理職に聴いてもらう」とのこと

せたホツと



➡ 相談者の「自分でもう一度話してみよう」との思いを後押し




母親

その後、担任の先生との話し合いに管理職も入り、ちゃんと思いを傾聴してくれた理不尽な行動に対しての謝罪や指導方法の改善を約束してくれたとのこと

→本人は「またおとなを信じてみることができそうだ」とのこと(現在も見守り継続中)

事例から見る「せたホッと」の役割

- 
- ・「せたホッと」に相談することで、本人の思いをもう一度整理してみる
 - ・「せたホッと」が動いて調整するよと伝えるも、自分でもう一度話してみようとの思いを後押しする
 - ・その一つひとつの段階が子どもの「自己肯定感」を高めていく過程となり、自信に繋がっていく
 - ・最近「学校・教職員等の対応」に関する相談が増えている
先生方も時間的・精神的余裕がないことが見て取れる。
子どもの気持ちを真ん中にして、学校・教職員と話し合う機会を設けること、その仲介役、また「人と環境の調整」を進めることが求められている。

03

小学生からの虐待に関する はがき・電話・面接相談 (本人・小学生)



小学生からの虐待に関するはがき・電話・面接相談 (本人・小学生)

【相談内容】

報告書p42 事例5



本人

パパが怒ってばかりいる
ぼくが宿題をやっていなかったり、忘れ物をするから怒る
怒らないでほしい。前は優しかった。優しいパパが好き

本人はまだ低学年のため、ひらがなを中心に短めの返事
はがきでの相談内容から、本人の生活状況が心配されたため、
電話もしくは会って話を聴きたいと伝えた

せたホツと



母親から電話、その後、本人と一緒に面接へ

小学生からの虐待に関するはがき・電話・面接相談 (本人・小学生)

【面接(せたホツと)】

報告書p42 事例5

面接に際して

- ・子どもサポート委員と相談・調査専門員で面接
- ・最初は母親も同席、好きなゲームの話などをして、緊張をほぐす
- ・その後、本人だけで話を聴く(気持ちに寄り添い配慮しながら)

- ・今年から母親が仕事を始めて家にいない
- ・学校から帰ると、ゲームなど自分の好きなことをやってしまう
 - 父親に宿題をやっていないことを叱られる
 - 父親と一緒に宿題をする際「何回言ったらわかるんだ!」と大声で怒鳴られる
 - 頭をコツンと叩かれて泣いたこともある



本人

「ぼくもいけないけど、怒られたくない。前みたいに優しいパパがいい」と、
父親への思いを伝えてくれた

小学生からの虐待に関するはがき・電話・面接相談 (本人・小学生)

【面接(せたホツと)】

報告書p42 事例5

本人が素直な思いを伝えてくれたことの感謝と、「親であっても、宿題を忘れたからといって、怒鳴ったり、叩いたりするのはよくないこと」を伝える

→本人の思いを母親と共有し、どうしたらよいかを一緒に考えていきたいと提案

→本人も了承

せたホツと



母親

自分も仕事を始めたばかりで、仕事との両立が大変で時間に追われる日々
父親も慣れない家事もあり、苦慮していたのだと思う

→本人の話をじっくり聴いてあげられず、申し訳なかった→父親とも話し合ってみる

はがきによる相談を始めたことで小学校低学年からの相談やメールや電話ができない状況にある子どもたちからの思いを受けとめることができるようになった

小学生からの不登校に関する
メール・面接相談
(本人・小学生)

04

小学生からの不登校に関するメール・面接相談 (本人・小学生)

【相談内容】

報告書p44 事例7

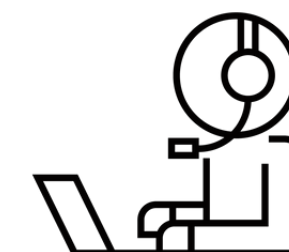


本人

- ・騒がしい声や大声が苦手で学校に行けない
 - ・授業中、担任が、大きな声で怒っているのを見たり、聞いたりするのもしんどい
 - ・親には、心配かけそうなのでちゃんとは話していない
- あまりおおごとにはしたくないけど、どうしたらいいか分からない

授業に集中できないことへの共感、苦痛をずっと我慢してきたことへのねぎらいを伝え、面接でこれからのことを一緒に考えていきたいと返信

せたホツと



→ **すぐにメールの返信があり、面接へ**

小学生からの不登校に関するメール・面接相談 (本人・小学生)

【面接(せたホツと)】

報告書p44 事例7



本人

- ・クラスの様子を詳しく聴く
 - ・担任の先生にも一度相談。クラスの様子は変わらない
先生も怒ってばかりの日々で、相談しても先生の負担を増やすだけと感じた
 - ・自分の気持ちを抑えているうちに、朝、なかなか布団から出られなくなったり、
学校に行こうとするとお腹が痛くなったりしてきた
- クラスの様子をうまく言葉で伝えるのは難しいため、
できれば学校に見に来てほしいと本人からの要望



後日、子どもサポート委員と相談・調査専門員で学校を訪問

小学生からの不登校に関するメール・面接相談 (本人・小学生)

【学校訪問】

報告書p44 事例7

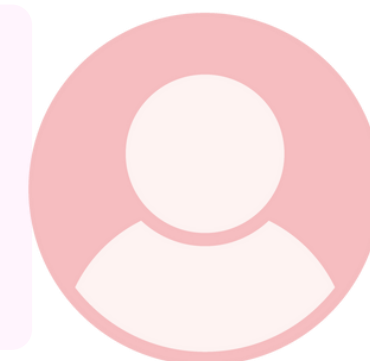


学校

授業の様子を見に行くと、担任の先生が大きな声で注意せざるを得ないほど、
クラス内が騒がしい場面を目にした

せたホツと

学校との話し合い→大きな声が苦手な人にとっては、現在の状況は不安が大きくな
っていくので、他の方法がないかを考えてみてほしいと伝える



学校

学校→クラスの様子を見に行ったり、担任への助言を行うなど、
担任へのサポートを学校全体として行っていきたい

小学生からの不登校に関するメール・面接相談 (本人・小学生)

【学校訪問後の様子】

報告書p44 事例7



本人

- ・クラスが賑やかなのは続いているが、以前ほど担任の先生が大声を出さなくなった
 - ・ひとりで抱え込まなくてもいいんだと思えたら、少しだけ不安が小さくなった
- その後も、不安なことがあった時など、せたホツとにメールで相談

この事例
から



- ・騒がしい音や大きな声が苦手という子どももいる
- ・教職員、大人の固定観念にとらわれずに、子どもの立場に立って考えていくことが求められる



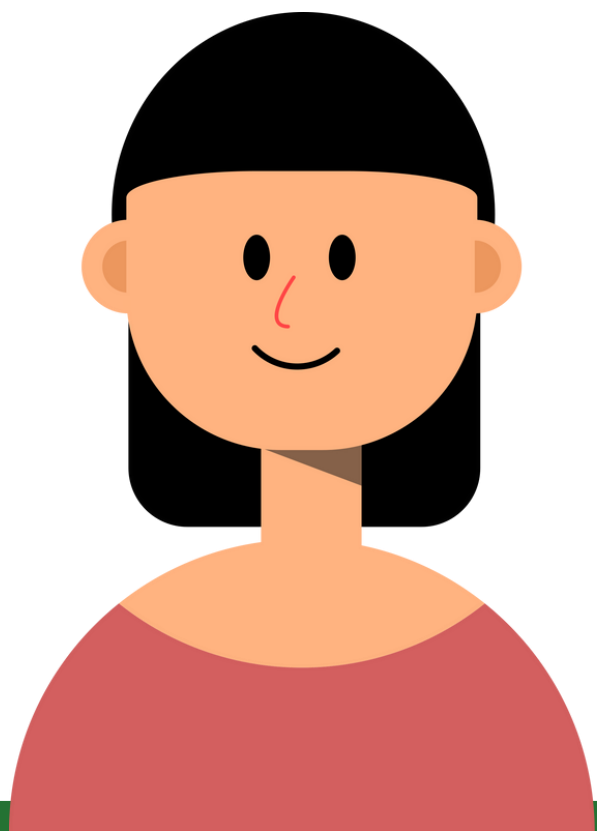
事例から見る 「せたホツと」専門員さんの仕事



事例から見る「せたホッと」専門員さんの仕事

- ・事例で見るように不安な気持ちを抱えて初めて相談に来た子どもや保護者のお話を受容・傾聴、気持ちに寄り添う。
- ・面接だけでなく、日々、届くはがき、メール、電話に丁寧に対応している
- ・毎日届く「はがきやメール、電話、面接」の記録を作成する

さまざまな理由で面接になかなか来てもらえない場合は、はがき、メール、電話でその相談者の気持ちや立場を考え、「見守っているよ」のエールを伝えて（はがき、メール、電話など）いる



第二部では「せたホツと」の専門員
さんにさらに詳しくお話を聞きます。
ご期待ください！